

産学連携部署の特性を活かした人材育成・教育活動

～イノベーション人材育成支援室の取組みについて～

○李 鎔璟、浜本 俊一、濱田 純夫、大高 聡
(山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構)

1. はじめに

山口大学では、平成 18 年度より文部科学省の委託事業として活動してきた「キャリアパス多様化促進事業」※ を拡充して、イノベーションに係る人材育成を支援する機能を強化するため、H20 年 11 月に産学公連携・イノベーション推進機構（以下「機構」という）内に「イノベーション人材育成支援室」（以下、「支援室」という）を設置しました。支援室は、機構の方針に則り、イノベーション創出支援人材育成に関する業務を行うとともに、各学部および各研究科が主体的に取り組む人材育成に関する業務を支援することを役割とします。

※キャリアパス多様化促進事業とは、若手研究者（博士号取得者・ポスドクなど）が主体的に進路を選択し、社会の多様な場面で専門性を活かして活躍できるように支援（素養の涵養とマインドの醸成）を行う事業です。

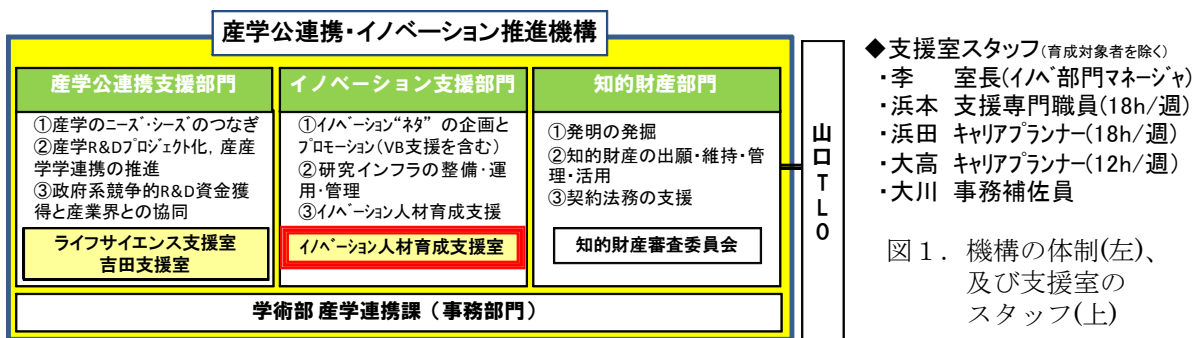


図 1. 機構の体制(左)、及び支援室のスタッフ(上)

2. 支援室の取組み内容

(1) 「中小企業等の次世代の先端技術人材の育成・雇用支援事業」(H22 経産省補助事業)

社会情勢等により就業機会に恵まれなかった大学院修士・博士修了者等の高度な専門教育を受けた人材を本学の学術研究員として雇用し、企業や公的研究機関との共同研究に従事させ、さらに実践的な教育研修を施して、新たなキャリアパスを構築させ、企業や公的研究機関で即戦力として活躍できる人材に育成すると共に、研修後の就業に向けて支援を行う事業です。

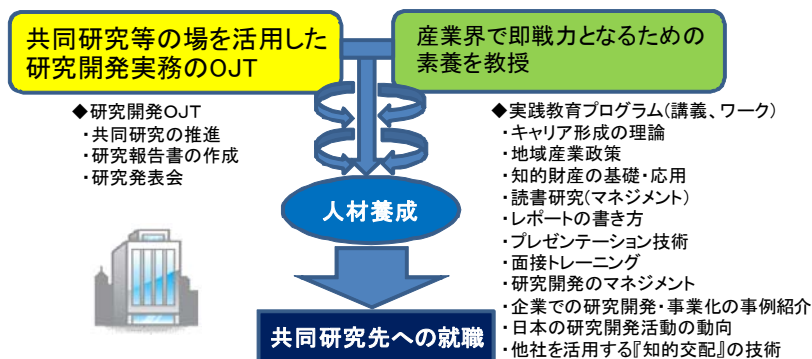


図 2. 中小企業等の次世代人材事業の概要

(2) 若手イノベーション人材育成プログラム

本プログラムは、ポスドクのキャリアアップを図るために実施しており、ポスドク自らが研究テーマを設定して研究業務を行うイノベーション創出研究員と、学内研究者の研究成果の技術移転や実用化に向けた産学連携支援業務(コーディネート業務)を行うイノベーション創出促進研究員の二つのコースがあります。

(3) イノベーションシーズ育成プログラム

本プログラムは、主に若手研究者の優れた萌芽的な研究に対して学内研究助成するとともに、実用化を見据えて機構のコーディネータ等が支援し、特許出願や競争的資金獲得、企業との共同研究等に繋げていくプログラムです。

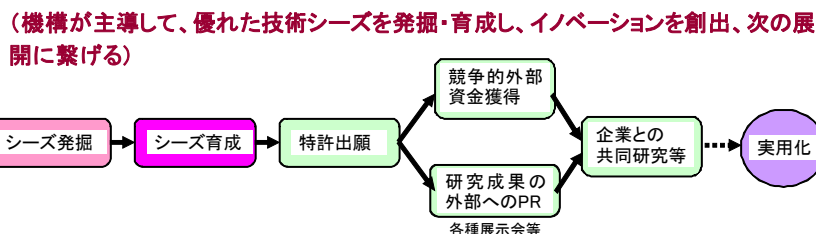


図3. イノベーションシーズ育成プログラムの概要

願や競争的資金獲得、企業との共同研究等に繋げていくプログラムです。

(4) 博士後期課程学生等のキャリア形成支援事業

博士後期課程の学生は専門領域において優れた知識とスキルを有する一方、アカデミア志向が強く総じて民間企業等へのキャリアパスに対する意識が低い傾向にあるため、本事業ではキャリアプランナー



図4. 博士後期課程学生等のキャリア形成支援事業の概要

ー (CP) を吉田地区と常盤地区に配置し、前者は理学系・農学系、後者は工学系博士後期課程学生等を対象にキャリア形成に関して個別面談等を実施しています。

(5) 博士学生のキャリア意識を高める講義

前記のキャリア形成支援事業と連動して、博士後期課程の学生(理工学研究科と医学系研究科の工学系及び理学系の学生)を対象としたキャリアマインドの醸成を図る講義を研究科と協働で企画・実施しています。平成22年度は全15回(2単位)実施、平成23年度は全30回(4単位)実施しています。講義はオムニバス形式で、主な内容はキャリアアップ、研究開発マネジメント、ドクターの将来、ベンチャー起業について、研究成果の保護と特許・知財検索、企業倫理、リスクマネジメント、地域戦略論、コミュニケーション論などです。

(6) 低学年次学生向けの社会人基礎力を高める講義

昨今職場や地域社会で仕事をするのに必要とされている基礎力を学生のうちから高めることを目的として学内の大学教育機構と協働して企画・実施している講義です。対象は1~4年生(医学系を除く)、共通教育科目の全15回(2単位)です。学生参加型の能動的講義(グループワークが中心)で、専門の外部講師を中心とした指導チームにより実施しています。